



○山下理事長はイスラエルとパレスチナで講演した
○正座をして黙祷する参加者たち



○井上氏と組み合うパレスチナの少年
○イスラエル（左）とパレスチナ（右）の子供たちがともに稽古



ルダン川西岸地区を含むパレスチナから25名の子供たちが、柔道衣に着替え、不安と笑顔で私たちを待っていたのです。

子供たちは最初、稽古相手を選ぶのにもごちなく、手持ち無沙汰で相手が来るのを待っていた状況でしたが、山下理事長や井上氏から、心に響く「自他共栄」のメッセージが伝わったのでしょうか、子供たちは次第に打ち解けて練習していました。

山下理事長は参加した子供たちに、「柔道で最も大切なことは、戦う相手を尊敬すること！」と、生きた言葉で伝えていました。

2010年12月の末に、本法人は運動事業として、イスラエルとパレスチナから中学生レベルの柔道選手を招聘する計画を立てています。今回、この合同練習を通し、また両国の柔道連盟の方々とは意見交換をした中で、この事業の可能性が一歩前進したことに確信を持ちました。



エルサレムを訪問した一行。左から山下理事長、文芸事務局長、井上氏

肌と肌で得た心と心の柔道交流

「現地に行って、改めてイスラエルとパレスチナ間の難しい問題や現実を知りました。そのような中、両国政府と柔道連盟、外務省、国際交流基金、そして在イスラエル日本大使館のみなさんが、柔道の持つ平和的な価値を理解していただいたことに、今回の訪問は大きな価値があったと思います」。山下理事長は今回のエルサレム訪問について、そのように語っていました。

この訪問を通して、私たちはこの地に足を下ろして初めて感じ、学んだことがたくさんありました。それは、私たちの想像を越える歴史の上に立った2国間について、日本で学んでいたことは事実関係でしかなく、汗をかき、肌と肌で得た心と心の柔道交流は、私たちに多くの感動をくれたことです。

地球上のすべての人が平和を望むことに疑いの余地はありません。今回の訪問で、柔道教室と山下理事長の講演会を通して、両国の柔道の仲間たちに、平和の希望を少しでも与えることができたのであれば、こんなにうれしいことはありません。

最後に、今回の訪問事業は本NPO法人だけで実施できたものではありません。外務省、国際交流基金、そして一番お骨折りをいただいた、在イスラエル日本大使館のスタッフの皆様、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。